

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ニコット(単位2)		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 14日		R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	R7年 1月 14日		R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	難聴児、医療ケア児(歩行可能)、肢体不自由、発達障がい、自閉症、ダウン症、様々な障がいを持つ児童を積極的に受け入れています。	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、看護師、児童指導員、介護福祉士といった多職種の専門スタッフが連携し、子どもたちが楽しみながら成長し、自立に向けた力を育む事を目的とした支援を行っています。	専門職が連携し、日常生活に必要な力を育む支援を提供していく。絵カードやデジタルツールを活用し、子どもたちが安心して取り組める環境を整えていく。
2	言語のツールとして職員全員が手話を使用してコミュニケーションを図るようにしています。食事時間や活動を通してながら装具を用いたのリハビリや訓練を行っています。	手話だけではなく、絵カードやシンボルマーク、写真、携帯のドロップトークを活用しコミュニケーションの幅を広げられるように支援しています。	手話や代替コミュニケーションツールを活用し、児童のニーズに合わせた多様な言語環境に対応していく。理学療法や装具の活用を通じて、身体の機能向上をサポートします。医療的なケアが必要な児童も安心して過ごせる環境を整えていく。
3	未就学の児童に対ししっかり療育が受けられるようにほぼマンツーマンで支援できる様に環境を設定しています。(祝日や長期休暇を除く)	視覚的支援を活用し見通しを持たせるようにしています。児童の気持ちを先取りせず、ペースに合わせた支援を心がけています。	個別療育や集団療育の組み合わせで他の子供たちとの関りを通じて社会性や集団でのルールを学び社会的な適応力を高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午後からは来所する児童が多い為、マンツーマンで支援する事が難しい状況で短所と言えますが、それが人間関係を構築していくうえで大切とも思っています。	長期休みなど、児童が多い際の活動スペースの確保が困難な場合がある。個別の部屋を使用したいが、すでに利用している場合がある。	児童が多い際にはレンタルスペースを利用したり、屋内と屋外の活動に分かれて行うようにしている。個別の部屋を使用できない時は、時間をずらして対応するようにしている。
2			
3			